

情報処理安全確保支援士

取ると何が変わる？

7つのメリットと先行者利益の確保戦略

年収・転職・案件単価への影響を最新データで徹底解説



維持費 15 万って高くないでしゅ？

武器は使ってこそ意味がある



【解説に入る前に】サービスのご紹介



セキュリティプロ・フリーランス

セキュリティに特化したフリーランス案件の
マッチングサービス

- ✓ 最高月収 150 万円・月額 80 万円以上の案件が 80% 以上
- ✓ リモート率 80% 以上、フルリモート案件多数
- ✓ セキュリティに精通した専任エージェントが営業・単価交渉・契約を代行

[詳細を見る →](#)



セキュリティプロ・テンショク

セキュリティエンジニア / コンサルタントに
特化した転職エージェント

- ✓ 最高想定年収 1,200 万円・利用者の 85% 以上が年収アップ
- ✓ 取扱求人の約 7 割が非公開求人
- ✓ 技術がわかるアドバイザーが書類添削・面接対策・年収交渉を代行

[詳細を見る →](#)



どちらも登録・利用は完全無料。在職中・フルリモート希望でも相談できます。
まずは市場価値の無料相談から。

● 取得・登録で得られる 7 つのメリット

1

国家資格の信頼

唯一のサイバーセキュリティ国家資格。法的守秘義務が信用の根拠になる

2

転職・昇進に有利

求人市場での証明力が高く、年収・役職昇進に直結しやすい

3

案件単価アップ

フリーランス・副業で有資格者は単価交渉の強力な根拠になる

4

入札要件で必置化

官公庁・防衛案件で有資格者配置が要件として記載されるケースが拡大

5

午前Ⅰ免除

合格から 2 年間、他の高度情報処理試験の午前Ⅰ区分が免除される

6

知識の強制更新

講習制度で最新の脅威・ガイドラインを常にキャッチアップできる

7

対外ステータス

合格率 15 ~ 22% の難関資格で、社内外の信頼と説得力が増す

● 唯一の国家資格が持つ法的信頼性



名称独占の法的根拠

法律で守秘義務を負う専門家として信用される



民間資格との決定的差

CISSP は民間資格。国家資格は法律で根拠を持つ



信頼の本質

法的守秘義務を負う専門家という事実が発注側の最大の安心材料になる

● 転職・昇進での市場証明力



Sler・コンサルの評価

体制図に名前が載り資格手当・昇進に直結



事業会社情シスの評価

CSIRT・SOC 立ち上げで優先指名されやすい



昇進効果の核心

有資格者が提案体制に入ると受注確度が上がるため、会社視点でも抜擢に効く

● フリーランス・副業での単価交渉力



信用の前借り効果

実績ゼロでも国家資格が最初の信頼担保になる



調達仕様書への記載

RFP・仕様書に有資格者要件の記載が増加中



参入障壁の本質

守秘義務を負う国家資格者という事実は、他スキルの何倍もの説得力を持つ

● 官公庁・防衛案件の実質必置化



入札要件への記載拡大

補助金・調達仕様書で支援士の配置が条件化



ISMAP 関連業務

政府システム評価制度で有資格者参画が求められる



入札機会の核心

有資格者不在の会社は入札参加できず、個人資格が会社の競争力になる

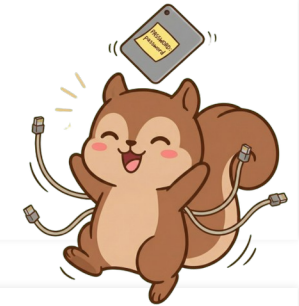


● 午前Ⅰ免除と継続学習のメリット



2年間の午前Ⅰ免除

ネスぺ・DBSP など7試験の対策コストを削減



最新知識の強制更新

講習で NISC 最新ガイドラインを常時キャッチアップ



複合投資の合理性

支援士→ネスぺの組み合わせは市場評価が高く免除制度も活かせる

● 「意味ない」と感じる 3 パターンと打開策



実務経験不足

SOC ・ 脆弱性診断 ・ GRC いずれかに乗せて実績を積む



職場が評価しない

転職 ・ フリーランス ・ 副業でセキュリティ市場に直接価値を問う



費用対効果不明

「年収 + 50 万」など目標と紐付けて投資判断する



原因は資格でなくミスマッチ。戦略次第で市場価値の伸びは変わる



● 登録すべき人・見送っても良い人

メリットが最大化する人

セキュリティが本業の中心

- ・ コンサルへ転身を狙う 30 代
- ・ Sier 上流の体制責任者
- ・ フリーランス転向を視野
- ・ CSIRT ・ SOC マネージャー志望

VS

費用対効果が見えにくい人

セキュリティが業務の一部

- ・ 純粋なソフトウェア開発専業
- ・ セキュリティ案件が年数件
- ・ 民間資格でも目標達成可能



判断の軸

セキュリティを本業の中心に据えるなら今が取り時

● 取得後のキャリアパス 3 選



セキュリティコンサル

月 100 ～ 200 万円規模の案件。国家資格が提案の説得力を担保



SOC/CSIRT リーダー

経営層・法務との折衝力が評価され昇進の近道になる



フリーランス案件獲得

脆弱性診断・CSIRT 支援・クラウドセキュリティで高単価を狙う

3 パスに共通するのは「有資格者」が最初の信頼担保として機能する点



● セキュリティ人材不足と今が取り時の理由



19万人の需給ギャップ

人材不足は解消されずセキュリティ予算は拡大を続ける



登録者 5 万人倍増目標

政府が 2030 年までの倍増目標を明示し政策追い風が続く



先行者利益の本質

5 万人体制前に取得した有資格者ほど希少性プレミアムを享受できる



● 情報処理安全確保支援士はキャリアの武器になる



唯一の国家資格として転職・案件単価・社内ステータス全てに効く 7 つのメリット



3 年 15 万円の維持費は年収アップへの投資と捉えれば十分に回収可能



人材不足と政策追い風が続く今こそ先行者利益を確保する絶好のタイミング

NEXT ACTION

まずは市場価値の無料相談・登録

[セキュリティプロ・フリーランス >](#)

[セキュリティプロ・テンショク >](#)

